

チーム学校の一員として

熊本県教育庁県立学校教育局 重岡 忠希

【本日の講話の流れ】

- 自己紹介
- 「国や社会に対する意識調査」（2019年日本財団実施）
- 「高等学校教育の在り方ワーキンググループ（中間まとめ）」
- 学校事務職員に求められてきた資質・能力
- 学校事務職員に今後求められる資質・能力
- チーム学校の一員としての人間力を磨く
- チーム学校の一員としての専門性を磨く
- 皆さんに期待すること
- 終わりに

【「国や社会に対する意識調査」2019年日本財団実施】

- 「自分は責任がある社会の一員だと思う」 (? %)
- 「自分で国や社会を変えられると思う」 (? %)

- ⇒ 調査対象国は、日、米、英、独、中、韓、印、ベトナム、インドネシアの9カ国
- ⇒ 調査対象年齢は？
- ⇒ 上記2項目の回答割合をどう思いますか？

【「高等学校教育の在り方ワーキンググループ 中間まとめ」一部抜粋】 (令和5年8月31日)

- 「生徒の資質・能力は可塑性に富むものであるにもかかわらず、高等学校入学の段階で、入試難易度や属性、これらに対する大人の価値観などに影響を受けて自身を評価してしまっている。」
- 「正解主義や同調圧力から脱却し、生徒が試行錯誤しながら、チャレンジできる機会を増やすことを通じて、生徒の自己肯定感を育てていくこと」が重要。
- 「生徒自身の可能性や能力を最大限に伸ばせるよう、社会に開かれた教育課程を実現していくことや、各教科等の学びを豊かなものとしつつ探究的な学び・STEAM教育等の文理横断的な学び・実践的な学びを推進していくこと」が必要。

【学校事務職員に求められてきた資質・能力】

- ・ 1位 正確・迅速な事務処理能力
- ・ 2位 学校事務職員としての志・責任感
- ・ 3位 人事・給与・福利厚生等に関する知識
- ・ 4位 勤務校での同僚・児童生徒とのコミュニケーション力
- ・ 5位 予算執行に関する知識

出典：国立教育政策研究所「義務教育諸学校の学校事務職員の職務の明確化・人事・人材育成に関する調査報告書（2015）」

【学校事務職員に今後求められる資質・能力】

- ・ 1位 学校全体を見渡し問題を発見し解決する思考力
- ・ 2位 教育委員会、保護者・地域などと渉外・交渉・連携する力
- ・ 3位 事務室・分掌組織等でチームとして成果を出す力
- ・ 4位 学校教育目標・教育課程を踏まえた仕事を遂行する力

出典：国立教育政策研究所「義務教育諸学校の学校事務職員の職務の明確化・人事・人材育成に関する調査報告書（2015）」

【チーム学校の一員としての人間力を磨く】

- ・人間性を高める自己変革（自己を見つめ直す）
 - ⇒ 明るい挨拶、積極性、向上心、謙虚さ、利他の心、県職員としての自覚と当事者意識、学び続ける姿勢、感性や人権意識を磨く。
 - ⇒ 学校で仕事をしていることに再度自覚を！
(子供たちにとって、学校で仕事をしている人は「みんな先生」)
- ・仕事の幅を狭めない。
 - ⇒ 教育活動を含め生徒・先生の様子等にも意識を！第三者的な視点の重要性。
- ・意識の変容 ⇒ 行動変容 ⇒ 生き方の変容
- ・明るく、常に前向き、困難にも進んで挑戦する行動力。

【チーム学校の一員としての専門性を磨く】

- ・教育行政職としての自覚と自己研鑽
 - ⇒ 学校教育（現場）と行政の双方に精通できる専門職である。
 - ⇒ 関係法令や条例・規則等についてOJTを通して身に付ける。
- ・新たなシステム等を積極的に活用し効果を検証する。
 - ⇒ 文書事務のRPA化、学校徴収金に係るシステム導入。
 - ⇒ デジタル採点の試行（13校）。
- ・学校事務の専門性の高度化
 - ⇒ スクールコンプライアンス、リスクマネジメント、財務マネジメントなど

【皆さんに期待すること】

- 子供や地域の実態を踏まえ、自校の教育について語ることができる。
- データに基づいた学校の現状を分析できる。
- 自校の課題を踏まえ、次なる改善策を教員とともに考えることができる。（事務室から見えてくる学校・生徒・保護者の課題）
- 地域の実情を熟知し、地域の人々と連携・協働できるための方策等を考えることができる。
- 指導・助言できる高度な専門性（会計、給与、サービス等含め事務全般）を身に付ける。
- 自校の教育目標の趣旨（子供にどのような資質・能力を身に付けさせるか）を理解し、それを学校事務の側面から具現化できる。（学習指導要領や県の教育プラン等についても意識的に情報収集する。）

みんなから選ばれる「魅力ある県立高校」づくりについて

I 将来像

前100年時代に対応したすべての高校生が夢に挑戦できる魅力ある県立高校

- 「夢を実現する力」を育む学校
- 地域で夢を拡げ、地域の未来を支える人材を育てる学校
- 夢への挑戦を支える学校

II 再編整備(H19~H30)後の状況(現状・課題)

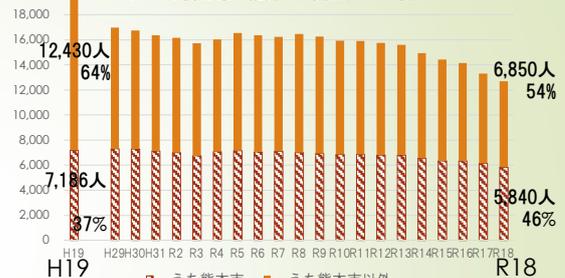
- 定員割れの状況
R5:県立高校全50校中36校 2,110人 (H19(2007):1,034人)
※熊本市以外の地域で定員割れが進行
(熊本市内の公立高校の充足率:100.4% その他地域:71.1%)
一定数の中学校卒業生が熊本市内の高校(私立含む)に流れている。
- 少子化の下げ止まり
中学校卒業生数は、R5.3月卒は16,527人。R9まで16,000人超が続く。その後、漸減の見込み。※熊本市以外の地域で中学卒業予定者減が加速

県立高等学校あり方検討会 提言(R3.3)

R3~R6年度の4年間は、新たな再編統合は行わず、
高校の魅力化に注力する

中学校卒業生数推移 (H20~R18)

※R14以降は県の推計人口調査(R3.10時点)



熊本市外:半減の見込み。H19年12,430人→R18年6,850人
熊本市: 2割減に留まる。R18熊本市:市外=ほぼ1:1

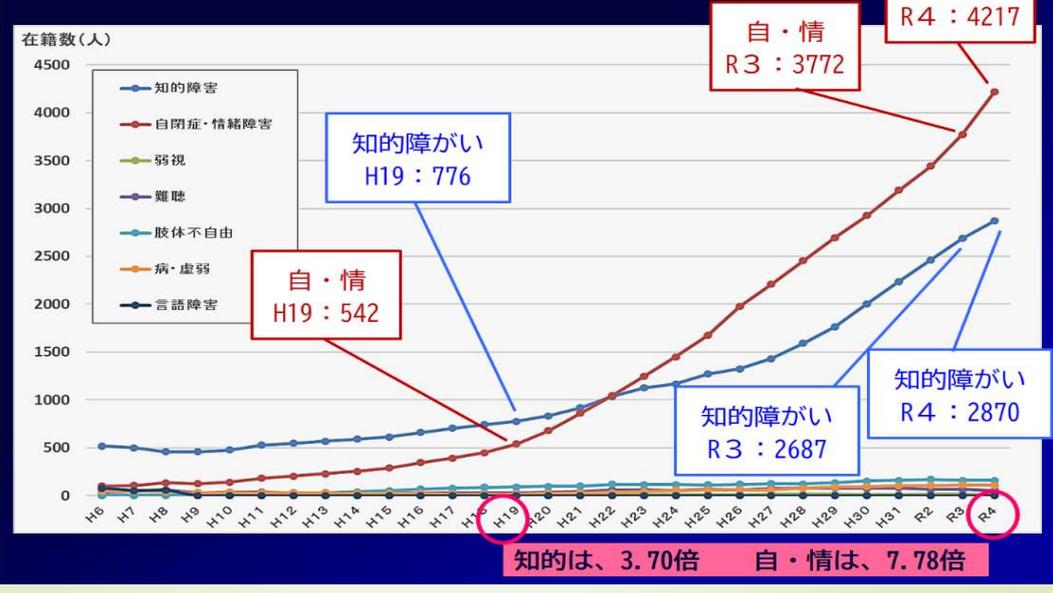
高1生 実員数の推移

年度	H19	R2	R3	R4	R5
公立実員	12,655	9,398	8,913	8,984	9,467
私立実員	5,681	5,565	5,483	5,735	5,414
公+私(計)	18,336	14,963	14,396	14,719	14,881

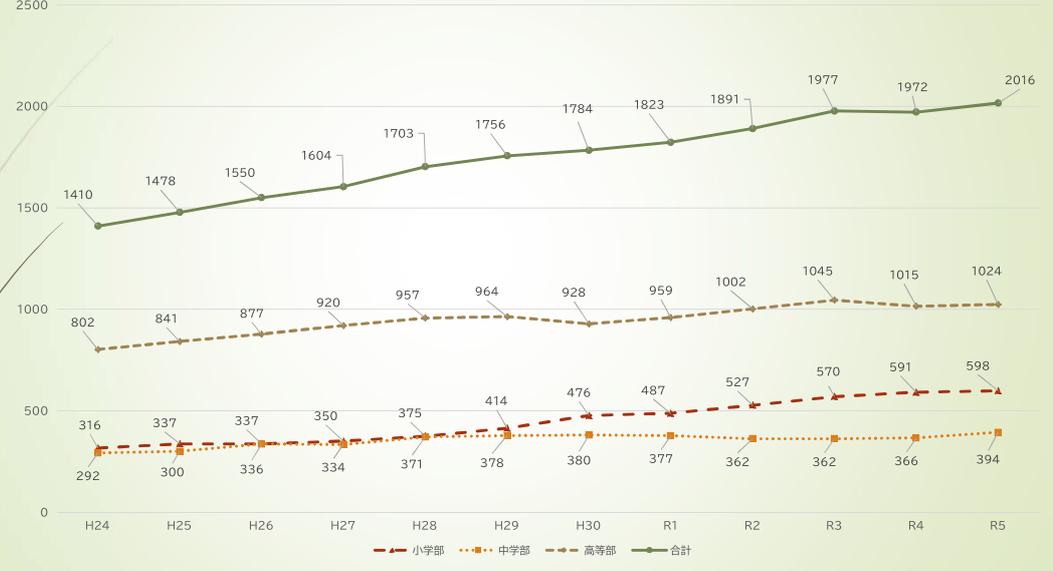
	H19	R2	R3	R4	R5
公立の割合	69.0%	62.8%	61.9%	61.0%	63.6%
私立の割合	31.0%	37.2%	38.1%	39.0%	36.4%

公立:私立 7:3 (H19) → 6:4 (R5)

特別支援学級障がい種ごとの在籍児童生徒数推移



県立特別支援学校 直近10年間の推移(学部毎)



【終わりに】

- 「逆境を力に変える。艱難汝を玉にす。足るを知れば心が富む。今、この時に集中せよ。賞賛を受けても決して慢心するな。その賞賛に相応しい言動に励め。非難をされても耳をふさぐな。その非難の原因が何かをよく考えよ。」（佐藤一斎『言志四録』より）
- 「国家百年の計は教育にあり」（管仲）
- 「公事には公利ありて私忌なし」（『左伝』）
- 「食飽かんことを求むることなく、居安からんことを求むることなし。事に敏にして言に慎み、有道に就きて正す」（『論語』）
- 「自分が称賛されるためでなく、この仕事に名誉をもたらすために心して事を成し遂げていく」（ナイチンゲール）
- 「無我になれば自ら能く謙なり。謙は衆善の基にして、傲は衆悪の魁なり。」（『伝習録』）

※ 心身のリフレッシュを図りながら、健康には十分ご留意いただき、ますますご活躍されますことを心から応援いたしております。

本日は、貴重なお時間をいただき本当にありがとうございました。